

松下幸之助に学ぶ!!

『繁栄による平和』

第二回

文・全国PHP友の会

会友 梶浦 洋一

(徳島PHP友の会顧問)

(H/PPHAG&

『菜根譚の会』世話人)

予想以上の活躍で多数のメダルを手にしたRioパラリンピック日本選手団や【Rio施設】の視察や閉会式へ出席された小池東京都知事も帰国した。そして4年後の『東京オリンピック・パラ

リンピック』運営にも関連する施設【築地市場】移転【豊洲市場敷地埋め立て問題】が『想定外事項?』としてにわかにクローズアップされた。

わが国の内政外交も目



民進党では新代表蓮舫氏を選んだものの新執行部選出で、早くもとかくの論評を發する党員が散見された。いくら【言論は自由】でもこのタイミングの無分別で大人なげない言動には呆れる。これが第一野党か。安倍『未来チャレンジ内閣』のデフレ脱却施策が仕上げに向かうのか、臨時国会での動向を注視したい。

人間は時に些細なことを発端にして争い事を大きくする場合がある。和平を貫くとすれば、あくまで冷静沈着にことに処する心構えを保持しておかねばならない。

さて、青木社長と佐藤専務のやり取りに戻ろう。

平和社会づくり

青木社長の話は続いた。

「…自分や家族を大切にできるから、他人や他人の家族も大切にできる。自分の国を大切にできるから、よその国も尊重できるんです。その国も尊重できないと攻撃相手を尊重できないと攻撃する。これが国家レベルで大きく変わったのが戦争だと私は思います。」

私は若いときに青年会議所に入り、今ロータリアンとしてささやかながら社会貢献活動をしています。もし自分の家庭や社員に問題が起きたら、ロータリークラブはやめると思います。なぜなら、順番があるからです。この順番さえ間違えなければ、大丈夫です。」

【うちはヘッドハンティングをしない】

佐藤専務

「幸之助はさまざまな宗教家との交流を通して、原理原則を学んでいます。平和についても教えられたことは多かったと思います。」

青木社長

「そうですね。バイブルにもたくさんヒントがあります。平和に関していうと、今も申し上げましたように『おのれを愛するように隣人を愛せよ』が平和の基本ですが、もう二つバイブルにあるのは『自分がされていやなことは人にしない』。これも平和の基本だと思います。だからうちはヘッドハンティングをしないんですよ。されることはあっても、することはない。」

アチーブメントは原則として新卒しか採用していません。中途で採用する場合は、私の本を読んでくださったり、アチーブメントの理念に共感して、どうしてもうちで働きたいという方に限っています。」

研修を受講していただく方のなかには人材として素晴らしい方もたくさんいますが、『うちの社員になってくれたら』という目で見たり、考えたりすることは二〇〇パーセントあり得ない。それはお客さまに対する裏切りになりますから。コンサルティングの二環としてヘッドハンティングをやってください、というお申し出もあります。それが、それもお断りしています。」

佐藤専務

「それは幸之助もまったく一緒ですね。幸之助もヘッドハンティングはしませんでした。それをされたら自分も嫌だから、そういうことは絶対してはいけないという考えでした。ただ、一人、どうしてもほしいと思う人がいて、そのときは人を介して、もらい受けています。それは戦争中のことです。それにナショナル証券の社長になった坂口保雄さんという人です。彼はもともと幸之助のところに『工場を買ってくださいませんか』と営

業に来た人間です。何度かやりとりするうちに、彼の能力と人間性にほれ込んで、どうしてもほしくなった。彼に声をかけたら『自分は社長だから会社をやめない』と言う。『いや、あなたは社長じゃないでしょう』と幸之助が言うと、坂口さんは『いえ、私は社長のつもりで仕事をしています』と言うんです。それでますます坂口さんがほしくなると、人を介してトップに直談判したんです。そういうことがありましたが、幸之助がヘッドハンティングをしたのは、基本的にはそれ一回ぐらいではないでしょうか。」

青木社長

「人を紹介してもらったり、もらい受けるにしても、きちんと筋を通す。そのあたりの義理をしっかりと果たすことで、厚い信頼が築けていったのでしょね。」

●これまでの話のまとめ

*【どうすれば平和に生きていけるのか

平和の原点は、自分がされて嫌なことを人にしない

こと】

*【万物の霊長である人間には原則として繁栄、平和、幸福が与えられている。自分を愛し、他者を愛し、社会を愛しながら、日々新たに生きるところに真の平和が広がっていく】

ここで、一区切りして【繁栄の哲学】世界から、スライドし三日目の【生き方の哲学】世界へ一気に飛ばしてきた。

生成発展の原理とは

【すでに用意されている成功への道

みつけどすには】

すでに、青木社長と佐藤専務は座席についておられる。(聞き耳を立ててみる)と…)

青木社長

「今日はいよいよ最終日です。最終日は生き方の哲学についてお話を聞きしたいと思えます。私は五〇代の半ばを過ぎて、ようやく『宇宙は調和だ』ということに気づいてきました。二〇代、三〇代には調和などという言葉はまったく考えもしませんでしたので、やはり年齢によって感じるものが変わってくるのかもしれませんが。幸之助さんが調和という言葉を使いだしたのはいつごろですか。」

代には調和などという言葉はまったく考えもしませんでしたので、やはり年齢によって感じるものが変わってくるのかもしれませんが。幸之助さんが調和という言葉を使いだしたのはいつごろですか。」

佐藤専務

「幸之助が『対立と調和』という言葉を使い始めたのも、まさしく五〇歳を越えてからでした。PHP研究を開始したのが五二歳のとき。そのとき幸之助は宇宙に對立しつつ調和しながら生成発展しているということを言いだしています。死でさえも、それを元にして新しいものが生まれていくのだから、生成発展だと幸之助は考えます。」

そして生成発展していく道は宇宙根源の力によって用意されている。ただ人間がそれに気づかず、間違った考え方ややり方をして、自然の理法にのっとっていないため、用意されている繁栄、平和、幸福が実現しない、と説くのです。」

ここで注意したいのは、幸之助のいう幸福は、あくまで人間の幸福だということです。猿や犬の幸福ではありません。すべての動植物、あらゆるものは人間の繁栄、平和、幸福のために用意されている。

たとえば鉱物は銅にしても、金や銀、レアアースにしても、それぞれ特徴をもっています。そういうものを使うことによって人間の生活が便利になっていきます。それらはすべて最初から用意されており、私たちが人間は長い歴史の中で逐次、それをみつけどすきました。

つまり人間にはこの宇宙の動きに順応しつつ、万物を支配する力がその本性として与えられているのだと、幸之助は考えます。『新しい人間観の提唱』文で、『人間は、たえず生成発展する宇宙に君臨し、宇宙にひそむ偉大な力を開発し』とのべているのは、そこなんです。万物それぞれの本質を見いだしながら、それを生かす…。」(つづく)